

此處に再び全従業員諸君に訴へんことをするものである。  
吾日本主義労働運動の眞髓、所謂究極の目的は、これを最も簡明  
率直に示さば、全日本の産業人たる労働者、否全労働大衆をして、  
眞に、純眞なる日本精神の大旗の下に、一致團結せしむることであ  
る、即ち吾々日本主義労働運動のその基綱は、一つに國家的信念の  
上に置き、雄大にして尊嚴なる、我國独自の建國の本義に立脚し、  
確固不拔たる認識の上に立ち同志は、共に和衷協力の念を懷きて、  
然も勞資一体、眞に産業立國の本義を全ふせしむるにある。茲に我  
等が絶叫する、正しき日本主義労働運動の根源と、その大なる使命  
が存在するのである。

### ○誤まれる過去の労働運動

然るに見よ、從來の労働組合運動は、今更多言を要する迄もなく、  
その多くは、外來直譯の思想にカブレ、輕薄なる階級闘争を以て事  
足れりさせる反國家的運動であり、必然的産業破壊の具たらんこ解  
されて來たのであるが、實に吾等は寒心に堪へざる所である。  
顧ふに、是等労働團體のその多くは、社會民主主義的に指導され  
行動を起してゐるのであるが、その過程を一度繙く時、そこには、  
彼等得意の宣傳として、先づ合理合法主義を唱へ、或は勞資協調だ  
或は温健着實労働階級權益の獲得だ、開放戦線の統一だ、立て労働  
者我等の陣營を死守せよ……と鳴物入りにも美言甘言のありた  
けを絶叫し來たのであるが、如何にせん労働大衆の嫌疑と必然的離  
脱を到底阻止し得るだけの力は得られなかつた。その原因何處にあ  
りや、最早今日の労働者諸君の頭上には、極めて簡明に點頭する間  
題である。要するに、斯の如き労働團體のその組織の根本的要素、  
即ち指導理論は、余りにも祖國愛に燃ゆる日本精神とは遙かにか  
はなれたものであつて、如何に美言甘言を弄するに雖も到底隠匿し  
得られぬ、所謂直譯萬能の一機關たる反國家的行動を、如實に表現  
した共產主義的團體であることは、是又多くの言葉を必要としない  
事實であり、必然的大衆嫌忌の裡に、没落の過程を辿りつつあると  
謂ふことは、當然に來るべき問題であること云はねばならぬ。

### ○日支事變に刺戟されて

然るに是等労働團體の中にも、最近に到つて、滿蒙問題其他日支  
事變の勃發に刺戟せられて、一部指導精神の急變せる團體の輩出を  
見たが、依然としてその根本態度に於ては、社會民主主義乃至は準  
共產主義的殘滓を清算する能はず、あらゆる宣傳と、反國家的運動  
に狂奔しつゝ、純良なる大衆を誤らしめんとしつゝ、あるを、我等は  
斷じて見逃がしてはならぬ。

親愛なる全従業員諸君

我等は斯の如き現下労働組合の情勢と、將又未曾有の一大國難に  
到達せる渾沌たる社會情勢を鑑る時、益々國民精神の普及と、國家  
産業の興隆を荷つて立つ、我等の任務の實大さを痛感せざるを得な  
いのである。

### ○國際關係に關して

更に我々日本主義労働組合の、國際的關係にいたつては、必ずや  
之れを否認するものではない、我々は日本の労働者の立場、進んで  
は人類愛の立場から、矢張國際的平和を念願し、國際的に於ける勞  
働階級の協力を衷心から熱望し止まざることは、今更言ふまでもな  
い所であるが、只日本の労働者として、既に述記し來つた如く、我  
等日本主義労働運動の基綱を、遠大なる祖國日本精神に置き、眞に  
國民的國家的信念に發足せしむるものであつて、若し、國際正義を  
逸脱せる諸外國の横暴に對しては敢然立つて之れを膺懲せざるを得  
ないのである。

### ○我等の陣營を堅守せよ

斯の如くにして、我等日本主義労働組合の結成は、眞剣なる同志  
の結合に依つて、全八幡労働大衆の眼前に、その偉大なる勇姿をあ  
らばさんとしてある。茲に於て、我等のこの正しき主張を理解せず  
國家を無視し、私利私闘を逞ふする惡辣なる資本家に對しては、斷  
呼として膺懲の手をゆるめず、眞に同志の和衷協力を相計り、國家  
産業の興隆を念願しやまざる純良なる資本家に對しては、互に一致  
協力、以て産業立國の大旗を掲げ、現下非常時日本の打開に一路猛進  
眞に勤勞大衆の經濟的社會的向上を期せんことを誓ふものである。

昭和八年七月二十日

八幡市西本町七丁目

日本主義労働組合結成準備會